

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103292
法人名	有限会社 託老所あんき
事業所名	グループホームこんまい「あんき」
所在地	松山市西垣生町1680-1 (電話)089-971-3318
自己評価作成日	平成23年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念である「一つ屋根の下、明るく楽しく、いきいきとして暮らす」をモットーに、一人ひとり利用者さんが人らしく最期まで生活出来るように支援・援助すること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中にある大きな民家を改修した事業所である。近所の方がボランティアで手入れをしてくれている広い庭には、シンボルツリーとして大きな桜の木がある。民家改修型のため自宅にいたようなゆったりとくつろげる雰囲気がある。代表者が地元の方であるため、町内会長や民生委員等と顔馴染みで、気軽に協力してくれる関係が構築されている。また、事業所の一部を開放して誰でもが気軽に立ち寄れる「縁側」をつくり、地域との交流を大事にしている。職員は利用者のことを大切に思いやり、優しい声かけを行いながら全員で作った理念を日々実践するよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

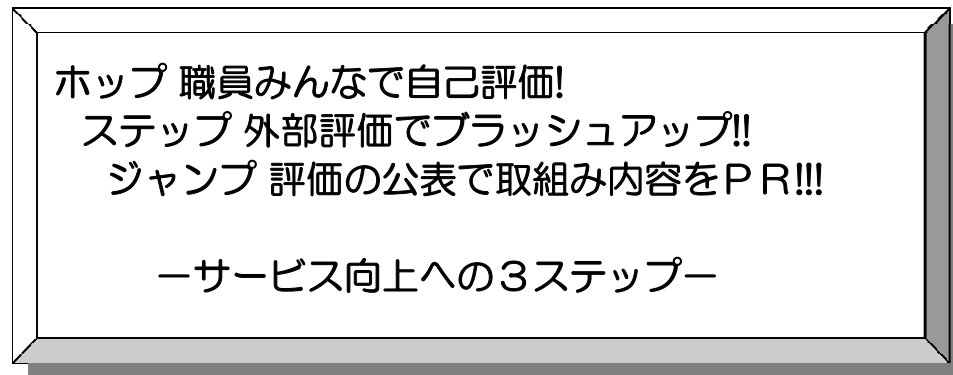
#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。



事業所名	グループホームこんまい「あんき」
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	前田 珠貴
評価完了日	平成23年8月26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 日々の申し送りや、ホーム内での研修時に運営理念に基づいて支援が出来る様に話し合いを重ねている。	
			(外部評価) 年の初めに職員同志で理念や目標について話し合い、理念に基づいたケアが実践できるよう努めている。前年の理念や目標について振り返りを行い事業所内で研修のテーマにする等、真摯に取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会の行事や敬老会、地区の文化祭や幼稚園の行事に利用者さんと職員と一緒に参加している。	
			(外部評価) 町内会の旅行に利用者も参加し、町内会の人々の理解や交流が深まるきっかけとなった。代表者が地元出身であるため、町内会長や民生委員等と顔馴染みで、気軽に協力してくれる関係が構築されている。また、事業所の一部を開放して誰もが気軽に立ち寄れる「縁側」をつくり、地域との交流を大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の高齢者大学の講師として地域で老いることとはについて一緒に考え勉強している。 老人クラブや地域の人を対象に、なるほどなっとく安心介護の講演会を実施した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者さんの日々の生活の実態を報告すると共に、利用者さんの家族や職員、地域の人と共に救急法および緊急時の対応を年間テーマとして取り組んでいる。	
			(外部評価) 家族や自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等多くの関係者の参加を得て概ね2か月毎に開催されている。防災訓練の話し合いが行われたり、行事と一緒に開催される等活発な意見交換の場となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 職員は市の研修に積極的に参加しているほか、ホームで行う行事には案内を出して参加してもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議にも出席してもらい、意見交換等も行っている。事業所の行事に来てもらったり、市の主催の研修等にも参加する等、地域密着型サービスになったことで関係が密になり、相談が気軽にできる関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で身体拘束に対する理解を深め、身体拘束をしないケアを心がけている。	
			(外部評価) 身体拘束をしても何もいいことはないという代表者の経験から、職員全員で理解を深め、身体拘束をしないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事務所間（伊予つむぐの会）で勉強を行っていると共に、グループホーム内の縁側に近隣の人の出入りがあり、第三者の目には常時触れている。広報誌や新聞の情報も提示している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修を受けた職員が報告研修を実施し、外部の講師を招き年に2回は研修内容として勉強している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な時間をとり、説明およびケアの内容や雰囲気を感してもらい理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常生活の中で利用者さんとの会話から意見が聞けるように心がけている。 ボランティアさんとの交流により職員に伝えにくい事等はボランティアさんから職員に伝えてもらっている。 また家族さんには意見箱を設置しているほか、家族の訪問の機会をとらえ意見等を話してもらえるように心がけている。  (外部評価) 家族には事業所の情報や利用者の様子を詳細に伝えるようにしている。家族の意見や要望は、疎遠にならないように利用料を直接支払いに来てもらうようにしており、その時を利用し直接話をするようにしている。出された意見は、運営に反映するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月代表者と職員がミーティングを行い、意見を出しあい、反映できるものはすぐに実行している。</p> <p>(外部評価) 代表者は気さくな人柄であり、しっかりと受け止めてくれるので何でも言える。また、職員が考えたことを代表者は制限せずに温かく見守り、時には指導を行っている。</p>	職員が自由な発想で利用者の生活を支援するために、職員それぞれが得意分野を伸ばしていけるようにしたいという思いが代表者にはある。職員が気づき、育つ環境や仕組みを構築し、さらなるサービス向上に繋がることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員と代表者で事業所内会議後意見交換を行っている。管理者と副管理者の意見を聞き、環境整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人外の事務所と職員交換研修を実施している。法人内で介護技術の研修の機会を実施している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修会において地域別グループワークに参加し情報交換を行っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 十分な時間をかけ、本人の不安や困りごとに対して本人が納得いくまで傾聴している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時に十分な時間をとり、相談内容から求めていることを受けとめている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、情報提供し一緒に考える努力をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごしながら本人の趣味や生活歴、風習を考慮し、暮らしの中で発揮してもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事に参加してもらい、共にその雰囲気を楽しんでももらい、時には本人の好物の差し入れ等により家族と団欒できる時間が取れるなど切れ目のない関係を保っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 本人の生活歴の中で忘れられないことを聞き、その場面や場所を逃さないように努力している。  (外部評価) 利用者の重度化も進み馴染みの場所に行くことがなかなか難しいが、開設9年目を迎え、利用者同志やボランティア、幼稚園の園児等、事業所で新たにできた馴染みも大切にしていこう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん同士の共通の話題やレクリエーションを通し、お互いの関係が深まるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者さんや家族の思いを聞き取り大切にしているもの、想いを受けとめて、いつでも来てもらえるような雰囲気や声かけをしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、さりげなく本人の意向や希望を聞き、また家族からの意向や希望を聞き、ケアプランに反映している。  (外部評価) 利用者との関わりの中で思いや意向を汲み取るよう心がけている。思いを伝えることができない利用者は、家族からの情報や今までの生活歴等から利用者本位になるよう検討している。家族の意向と利用者の思いが違うことがあり、最善策を職員全員で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から聞き取り、生活歴の把握をし、生活の中で見えてきたことを家族や本人に再度聞き取り、生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の食事と入浴と排泄とバイタルによる基本的な状況把握をし、なおかつ行動や言葉によって総合的に把握している。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 本人・家族から意見を聞き、職員全員でカンファレン スを行い、それに基づき介護計画を作成している。	
			(外部評価) 毎月5日に職員全員でケア会議を行い、モニタリング や目標等の見直しを行っている。利用者や家族の要望 を聞き取り介護計画に反映するよう心がけている。記 録は介護計画に沿ったものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の出来事や気付いたことは個人記録と申し送り ノートに記入し、全員が情報を共有し、ケアマネ ジャーと共に介護計画の見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により、外泊や外出を希望されたり 各機関への送迎等状況に応じて柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 年間を通じて行事に参加してもらったり、訓練事業や 地区文化祭、また月4回の幼稚園児との交流や地域の 医療機関およびボランティア、地域住民の方々と住民 の支えあいについての学習をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人および家族の希望により、往診や訪問歯科その 他の医療機関への受診に同行し、家族への報告を行っ ている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関で受診をしている。 受診は基本的に職員が行い、結果については家族に報 告している。また、協力病院の医師が往診してくる 等、利用者の健康管理は十分行えている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 法人内での看護師や地域の医療機関の看護師と連携を とっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 馴染みの関係が切れないように職員が順次面会に行 き、必要に応じて病棟の看護師に状態を伺っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 日頃から本人の希望、家族の気持ちを医師に伝え、職 員全員が情報の共有を図り、状態の変化に応じて連携 を図り、重度や終末期であると医師から伝えられたと き、家族と職員とで今後に向かってのカンファレンス を行い、家族の意向を受けとめ、家族と医師と共に状 態を共有し、最期までその人らしく暮らせるように看 取っている。</p> <p>(外部評価) 看取りの経験もあり、かかりつけ医等との連携体制も 構築されている。早期から利用者や家族の希望を確認 しているが、利用者の状態が変化するたびに家族の意 向を確認し、利用者や家族にとって最善のケアが提供 できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアル作成しマニュアル通りの対応訓練をしている。 応急手当の研修も実施。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 町内の防災訓練や自施設主催の防災訓練を実施し、災害時における避難の仕方や、町内の方に当ホームのメンバーの顔を覚えてもらって緊急時にはすぐに協力していただける体制を作っている最中である。  (外部評価) 過去に近くの川が氾濫したことがあり、その時に近所の方が自主的に助けに来てくれそれがきっかけで防災訓練等にも参加してもらっている。防災訓練の際に救命救急等の講習をする等、緊急時の対応を身につけるよう努力している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた声かけや、昔の馴染みのある呼び方で対応している（家族にも確認をとっている）。記録は厳重に保管している。  (外部評価) 職員は、利用者を愛称で呼ぶこともあるが、利用者や家族の了解を得ており、その声には親しみと優しさを感じられる。日本家屋のため厳密なプライバシーの確保は難しいが、職員の歩く音や利用者の話し声などが聞こえ一人ではないという安心感を感じる。排泄等のプライバシーは配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できる方については自己決定に添えるケアをしている。 本人説明しても自己決定できにくい方については家族と共に考え支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんに今日1日何をして過ごしたいか、何を食 べたいか話し合いながら本人がしたいことを優先し楽 しく過ごしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	(自己評価) 美容室に行きたい人は希望する美容室に行ってもら うようにしている。 気分を変えたいときなどは、毛染めのカラーを本人の 好きな色に染め喜んでもらったり、マニキュアをし たりしておしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひと りの好みや力を活かしながら、利用者と職 員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんが何を食べたいかを聞き、期待にそえるよ うに作っている。 食べ終わると自分からすすんで片付けを手伝ってくれ ている。	
			(外部評価) 夜勤者が下ごしらえをして日勤者が仕上げるようにし ており、役割分担をしている。利用者に無理のない範 囲で配膳や後片付けを職員と一緒にやっている。支援 の必要な利用者には職員がさりげなく横に座り、話 しかけながら利用者のペースで介助が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 昔ながらの食材にこだわり、昔食べていたものを継 続、食事量の把握と記録し、職員間で伝達しあって1 日の栄養、水分の確保が出来る様に気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者さんの希望により毎食後は必ずしも歯磨きをし ていない人もいるが、1日1回は必ず口腔ケアをして いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを知ること努めているが、紙パンツを使用している方が大半である。定期誘導は欠かさず行い、なるべくトイレに行くという習慣をもってもらおう。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じてトイレへの誘導を行っている。できる限りトイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者の状況によりポータブルトイレや尿取りパッド等を使用している。排便についてもチェックをしており、看護師が対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘についての研修会に参加し、食材や水分が取れる工夫をするほか、散歩等適度な運動も職員と一緒にやっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯、お湯の温度、入浴の時間帯一人ひとりの希望にそって配慮し、入浴してもらっている。入浴は毎日行っている。	
			(外部評価) 利用者の体調を考慮しながら、できる限り毎日入浴している。重度の利用者は職員が2人体制で行う等、安心して入浴ができるよう配慮されている。個浴であるため利用者一人ひとりの好みに合わせた温度で入浴できるよう調節をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの1日のリズムに合わせたお昼寝や庭の散歩等を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の服薬管理を行い、薬の効能効果・使用上の注意等を添付し職員全員に周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の得意としている事を、日々の生活の中に取り入れ、外食やドライブや散歩等本人が希望する支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 庭に出て過ごすこともするため、近所の人との交流もあり、また四季折々にはお花見や日帰り旅行等も実施している。 その都度利用者さんに聞きドライブは実施している。	
			(外部評価) 近くの幼稚園には毎週金曜日に訪問し、子どもたちと楽しいひと時を過ごしている。また、フラダンス等の踊りを同じグループのデイサービスに見に行ったり、お花見等の行事も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物や外食時には、それぞれの好物やメニューを選んでもらい楽しんでもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族からかかってくる電話に本人が対応して楽しく話してもらったりいる。 はがきや手紙が届いたときには本人に手渡し、一緒に呼んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や馴染みの置物等により、心地よく過ごせるような設えに工夫している。	
			(外部評価) 閑静な住宅地の中にある大きな民家を改修して事業所としており、自宅にいるようなゆったりとくつろげる雰囲気がある。近所の方がボランティアで手入れしてくれているきれいな庭があり、四季折々の花が楽しめる。トイレや風呂等には不快なおい等はなく清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 庭の見える廊下にイスを置いたり、デッキにもイスを置いてくつろげる空間を提供している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に本人と家族が相談して、馴染みの家具や品物を持ってきてもらっている。	
			(外部評価) 利用者が今まで使用していたタンスや日用品が持ち込まれ、利用者の使いやすいように配置された個性豊かな居室で、居心地よく過ごすことができるよう配慮されている。全室畳であるため這って移動することも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) それぞれの身体機能に応じた生活リハビリを取り入れている（段差等の活用）。	